平成２９年度　自己評価書

学校名	和歌山市立吹上小学校
校長氏名	柏　野　貴　之
作成日	平成30年（2018年）1月17日

1　教育目標

新しい時代を切り拓く、心豊かでたくましい人間を育成する
（ふ）深く考え、進んで学ぶ子　　（き）気概をもち、めあてに向かって働く子
（あ）あたたかい心をもち、なかまとみがきあう子　（げ）元気いっぱい、体をきたえる子

2　本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	豊かな心	確かな学力
重点目標【P】	○　教育活動や児童の活動の様子を学校便り等で発信する。 ○　家庭や地域と連携して取り組む機会を生かし、協働の立場で児童の健全育成を目指す。 ○　学校運営協議会を設置し、家庭や地域との協働体制の土台づくりに努める。	○　健康で心身ともに豊かな子どもの育成を目指し、人権教育や国際理解教育、児童による異年齢での縦割り活動に取り組む。 ○　児童の規範意識を高めるとともに、いじめや不登校、問題行動等の解決に向けて組織的、継続的に取り組む。	○　全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査結果から児童の実態を分析・把握し、取組の成果を検証する。 ○　児童が自分の考えを「かく」「説明する」「考えをつなぐ」活動を効果的に行うための授業展開を探り、授業改善について研究する。 ○ 友達と一緒に学ぶことの楽しみを児童に感じさせられる授業を展開する。
取組の状況【D】	○　「学校だより(たまも)」「保健室だより」「給食だより」等を家庭に配付し、連携の基となる情報発信を心がけた。 ○　保護者及び地域の方々に参観いただくため、年間5回の授業参観及び年間2回の一日学校公開を実施した。 ○　学校関係者評価では、学校運営協議会の委員を交え、児童の頑張りや気になる点を話し合うことができた。	○　異年齢の縦割り活動である「なかよし活動（清掃活動・遊び）」に日常的に取り組んだ。 ○　JRC活動では、担当児童が集会を利用して全校に紹介するなど、一円玉募金、エコキャップ集めの活動に毎学期取り組んだ。 ○　登校しにくい子の支援については、全職員で情報を共有し、スクールカウンセラー来校時を活用して、その指示を仰ぎながら組織的に取り組んだ。	○ 児童の学力実態を把握するための調査に基づき、研究授業の観点を設定し、その後の取組の成果と課題について全体で協議する場を持った。 ○ 研究テーマに基づき、外部から講師を招聘して校内研修を行い、教員全員が必ず一つの授業（算数または人権教育）を提案し、協議する場を設けた。 ○　取組の成果と課題を明らかにするため、10月に算数科教育の研究発表会を開催し、授業提案・研究協議の機会を設けた。
取組の成果と課題 評価結果【C】	○　保護者へのアンケートで「学校は教育活動を分かりやすく伝えているか」の問いに対して、肯定的に回答した割合は88％で昨年度と同じである。 ○　図書ボランティア、お話の語り、土曜チャレンジスクール（子どもセンター事業）等で、多くの方から教育活動に対する支援をいただいた。 ○ 「学校だより（たまも）」の地域への発信方法についても、実現に向けた方法を検討していく必要がある。	○　学校に不慣れな1年生と最高学年である6年生のペア活動は、6年生のリーダーとしての自覚を高め、その後のリーダー的な行動に繋げることができた。 ○　全国調査の児童質問紙調査で、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して、当てはまると回答した児童の割合は、ここ数年連続して全国平均を上回っており、自尊感情が高い児童が育ちつつある。	○　全国及び県の学力調査の結果、学年相当の学力を身につけた児童の割合は高いと考えられる。 ○　全国調査の児童質問紙調査で、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の問いに対して、当てはまると回答した児童の割合は全国平均を下回っており、学習したことを生活や次の学習に結び付けてその定着を図る必要がある。
次年度に向けての改善方法【A】	○　上記に加え、昔の遊びや各種体験活動、家庭科での実習支援など、地域の方に学校へ来ていただく機会を増やしていきたい。	○　保護者へのアンケートで、「学校は子供に命を大切にする心や社会のルールを守る態度を教えているか」の問いに対して、肯定的に回答した割合は87％で昨年度より1ポイント増えている。今後も、より落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送らせ、規範意識の向上に取り組んでいきたい。	○　授業の中に、自分の考えをかく活動を適切に位置づけるためには、教材研究や資料等の準備が欠かせない。授業の準備に時間を使えるよう、他の校務の整理に努めたい。 ○　家庭学習のねらいや方法について、保護者への一層の啓発に努めたい。

3 その他の課題